

平成29年度 洋野町立中野中学校

「自ら学び自ら修める生徒の育成 ～『海洋教育』を通して～」

活動記録集



洋野町立中野中学校

目 次

1	はじめに	1
2	総合的な学習の時間 海洋教育年間指導計画	
	・第1学年	2
	・第2学年	3
	・第3学年	4
3	総合的な学習の時間 運営計画	5
4	実践計画	6
5	各学年の実践	
	（1）総合的な学習の時間学習指導案	
	【1学年】	8
	【2学年】	14
	【3学年】	18
	（2）各学年取組実践の様子	
	【1学年】	23
	【2学年】	24
	【3学年】	25
	（3）全校取組実践の様子	26
	（4）海洋とつながる教科の生徒作品・コンクール応募作品	27
6	実践の評価	31
7	実践の成果	
8	次年度への課題	
9	主な連携機関及び内容	
10	おわりに	32

1 はじめに

本校では、「自ら学び自ら修める生徒の育成 ～『海洋教育』を通して～」を研究主題に、平成28年度から海洋教育を軸とした「総合的な学習の時間」に取り組んでいます。今年度は「自ら学ぼう～洋野の自然・人・社会とのふれあいから～」をテーマに、郷土を愛し、復興・発展を担う人材の育成を目的とした「総合的な学習の時間」の学習を進めてきました。

近接する洋野町立中野小学校での「海洋科」における学習や経験を土台に、本校では地域教育資源を活用した学習（地元企業と連携した、きのこの植菌体験、地元の物産品の販売体験、再生可能エネルギーの学習、海岸清掃、伝統芸能など）の充実を図ってきました。そして、この学びを通して洋野町に住む人々が海洋とどのように関わり、どのような恵みを受けているか理解を深めることで、生徒の「課題追求能力」「表現力」を高めることを目標に指導を進めました。小学校から継続した学習により、生徒たちは海の恵みを引き継ぎ発展してきた郷土を誇りに思い、未来を支える人材としてたくましく成長しようとしています。

この活動記録集には、今年度、本校で取り組んだ総合的な学習の時間の中における海洋教育の取組実践や活動の様子などをまとめました。



中野中学校から見える海



中野中学校校舎

洋野町立中野中学校 1学年 「地域を知ろう～海と山の関係」

【実践のねらい】

地元企業、自然を活用した様々な活動を通して、洋野の海と山の関係から地元の良さを知り、地元に対する興味・関心を深めさせる。そのため、地元企業の方に講師になっていただき、山と海の関係についての学習活動の他に、地元企業で取り組んでいる冷涼な気候を生かした「なめこ」の植菌作業や、地元で取れるあわびの殻を利用した「三陸あわび茸」の菌床プロックづくり、商品のラベル作りなどの体験的活動を行う。それらの活動を通して、自分たちの生きている地域の魅力について知り、地元に対する愛着を深める。

○時数 4月から3月 (総合的な学習の時間) 3.3, 国語, 理科, 社会科, 英語科, 美術科, 音楽科, 家庭科

○関連 国語, 理科, 社会科, 英語, 美術科, 技術・家庭科

○目標 (1) 地元企業、自然を活用した様々な活動を通して、洋野の海と山の関係から地元の良さを知り、地元に対する興味・関心を深めることができる。

(2) 課題設定や課題解決・追求活動に主体的に取り組むことができる。

(3) 目的にふさわしい情報収集の仕方を知り、様々な方法で情報収集を行うことができる。

(4) まとめめ方のプロセスを知り、学習の成果をまとめることができる。

(5) 学習、体験活動や発表を通して知った洋野町の魅力と、自分らしさや自己の成長を発見することができる。

主な連携機関	内容	内容
長根商店	地元企業の事業と海との関係の学習、なめこの植菌作業	三陸あわび茸の菌床プロックづくり、商品のラベル作成
ひろのまきば天文台	大野地区の産業と海洋の係わりについて講義	洋野町物産品の販売 文化祭での洋野町物産品の販売
長根商店, 種市南徳協, 川崎食品, 須賀豆腐店, 洋野町商工会	洋野町物産品の販売	洋野町物産品の販売
洋野町立中野小学校	修学旅行 (東京都中野区)	修学旅行 (東京都中野区)
中野ふじの会	洋野清掃, 授業参観, 弘大校内研修会	洋野清掃, 授業参観, 弘大校内研修会
中野地区コミュニティ協議会	伝統芸能「ナニヤドギヤ」の学習会, 練習会	伝統芸能「ナニヤドギヤ」の学習会, 練習会
	洋野清掃, 地域貢献活動	洋野清掃, 地域貢献活動

学校行事	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学校行事	紹介式・始業式 入学式 身体測定 実力テスト 交通安全教室 生徒会入会式	運動会 青少年劇場 地区通信陸上	地区中総体 期末テスト	地区合唱交流会 県中総体 校内合唱交流会	始業式 地区陸上 実力テスト 身体測定	地区新人戦 IBC ことば音楽コンクール 中間・前期テスト	生徒会役員選挙 県新人戦 町音楽発表会 文化祭	生徒総会 期末テスト サミット 県中文祭	校内合唱交流会	3学期始業式 実力テスト 三送会	期末・後期テスト	修了式 卒業式
他教科との関連	【国語】「話し方はどうか」 【社会】「世界の人々の生活と環境」	【国語】「鮮やかに表現する」 【社会】「世界の各地の人々の生活と環境」	【国語】「質問する」	【国語】「分類する」 【理科】「構成を考えて書く」	【国語】「意見文を書く」 【理科】「火山の姿」	【国語】「順序立てて説明する」 【理科】「スピーチ」 【社会】「地震と災害」	【国語】「案内や報告文章を書く」 【理科】「地層の成り立ち」 【社会】「The Wonderful Ocean」	【社会】「世界の諸地域」 【理科】「美術・家庭科」 【技術】「商品ラベル作り」 【社会】「パソコン操作」	【国語】「グループディスカッション」 【理科】「水中ではたらく力」	【社会】「日本の姿」		
活動の流れ	オリエンテーション(1時間)	①海と山の関係について知る(海を知る)(3時間) ・カキ養殖人の話から海と山のつながりについて興味を持つ。 ・山と海の関係性を生かした地元企業の取組について知る。 ・大野地域と海洋とのつながり、産業について知る。	②海と山を生かした特産品を作る(海に親しみ、海を利用する)(6時間) ・なめこの植菌作業に挑戦 ・三陸あわび茸菌床プロック作り挑戦	③洋野町PR大作戦(海を知る・海を利用する)(6時間) ・企業の方から話を聞いたり試食をしたりして、洋野町の特産品のアピールポイントを考える。 ・洋野町PR大作戦のためにPRを考え、宣伝したり、販売したりする。 ・販売を振り返る。	④商品のラベル作り(海を知る・海を利用する)(美術) ・商品についての説明を聞き、実際に商品を作ることを考えながらラベルを作成する。 ・作成したラベルの説明をし、根拠を明らかにし、1番良いと思ったラベルを選ぶ。	⑤キャリアアップ研修(海に親しみ、海を利用する)(2時間) ・文化祭での販売体験を生かし、キャリアアップ研修での販売体験に向けた準備をする。	有楽海産品 (洋野清掃・2時間)	地域を知ろう～海と山の関係(33時間)				
ナニヤドギヤで地域を笑顔に (海を知る)(2時間)・地域に伝わる伝統芸能の歴史にできる踊りをする												

洋野町立中野中学校 2 学年 「地域を考えよう～洋野町と他地域との比較から」

【実践のねらい】

他地域と洋野を比較することを通して、他地域と洋野町のそれぞれの特性を生かした産業などについて学ぶとともに、洋野町の魅力や課題点を焦点化させる。そのために、キャリアアップ研修の際には岩手県盛岡市で地元特産品の販売体験活動、観光、環境、住、食の視点で秋田県仙北市についての学習活動などを行う。また、地元企業協力の下、職場体験学習を行い、職業観や勤労観を養いながら、将来を考えられる能力を高める。これらの活動を通して、自分たちの生きている地域の課題を見つめ、洋野の特性を生かした課題解決の道を探る。

○時数 4月から3月 (総合的な学習の時間)

○関連 国語、理科、社会科、技術・家庭科

○目標

- ・キャリアアップ研修を通して、他地域と洋野を比較し地元の問題を見付け、地元の良いところを発見し、発展について考えることができる。
- ・地域での職場体験を通して、働くことの意味や働く人の思いについて考えを深めることができる。
- ・「海」を視点とし、様々な問題状況の中から、課題を発見・設定することができる。
- ・各教科で身につけた専門知識や情報を比較したり関連付けたりして問題解決に向けて考えることができる。
- ・地域の一人としての自覚を持ち、郷土を愛する心を培い、現在そして将来、生まれ育った地域や自分の住む場所の発展を考えられることができる。

主な連携機関	内容	容
長根商店、稲市南漁協、川崎食品、錦豆腐店、洋野町商工会事務所、大野ふるさと公社	キャリアアップ研修 (岩手県盛岡市) での洋野町物産品の販売	
長根商店	修学旅行 (東京都中野区) 販売準備	
再生可能エネルギー関連施設	なまこ収穫・加工	
中野地区を中心とした企業	知育の特性を生かした再生可能エネルギーについての学習	
洋野町立中野小学校	職場体験学習	
中野ふじの会	海産物産、授業参観、拡大校内研修会	
中野地区コミュニティ協議会	伝統芸能「ナニヤドヤ」の学習会、練習会	
洋野町保健センター、食生活改善推進協議会	海岸清掃、地域貢献活動	
	郷土食、調理実習、地産地消の学習	

学校行事	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	紹介式・始業式 入学式 身体測定 実力テスト 交通安全教室 生徒会入会式	運動会 青少年劇場 地区通信陸上	地区中総体 期末テスト	地区合唱交流会 県中総体 校内合唱交流会	始業式 地区陸上 実力テスト 身体測定	地区新人戦 IBC こども音楽コンクール 中間・前期テスト	生徒会役員選挙 県新人戦 町音楽発表会 文化祭	生徒総会 期末テスト 県中文祭	校内合唱交流会	3学期始業式 実力テスト 三送会	期末・後期テスト	修了式 卒業式

「地域を考えよう～洋野町と他地域との比較から」(53時間)

オリエンテーション(1時間)

①キャリアアップ研修(海を知る・利用する)(5時間)
観光、環境、住、食の視点で他地域の特性を生かした産業などについて学ぶ。

②洋野町PR大作戦(海を知る・利用する)(4時間)
洋野町の特産品のアピールポイントを考え、販売ポスターなどを作る。
洋野町PR大作戦のためにPRを考え、宣伝したり、販売したりする。
販売を振り返る。

③再生可能エネルギーについての学習(海を知る・海に親しみ・海を利用する)(5時間)
洋野町内で行われている再生可能エネルギーについて理解する。

有家浜清掃(海を守る)(2時間)

④「なまこ」の収穫・加工(海を利用する)(2時間)
・販売実習に向けてなまこの収穫と加工を行い、海や山の恵みについて再確認する。

⑤職場体験学習(11時間)(海を知る・海を利用する)
・地元企業での職場体験学習を通し、働くことの意義などを考える。
・中野地区の人々と海の間わり、震災前後の海などに対する思いなどを知り、自分の生き方について考える。

⑥「なまこ」の収穫・加工(海を利用する)(2時間)
・販売実習に向けてなまこの収穫と加工を行い、海や山の恵みについて再確認する。

⑦修学旅行に向けた準備(海に親しみ・海を利用する)(7時間)
・1年生での販売体験を生かし、キャリアアップ研修での販売体験に向けた準備をする。
・海に関わる学習したいテーマを決め、修学旅行で訪問する施設を決め、準備を進める。

年間活動を振り返る(1時間)

他教科との関連	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
他教科との関連	【社会】 「世界から見た日本の自然環境」	【国語】 「問題意識を持つて聞こう」	【国語】 「要約する」	【国語】 「説明する」 「レポート」		【国語】 「意見文」 「プレゼンテーション」	【理科】 「セキツイ動物の出現と進化」	【社会】 「北海道地方」	【家庭科】 「地域の恵みを使った調理実習」	【家庭科】 「持続可能な社会を考える」	【国語】 「話し合い」 【理科】 「天気の変化を予想しよう」 「気候災害への備え」
	【技術】 「パソコン操作」	【国語】 「水の循環」									

ナニヤドヤで地域を笑顔に(海を知る)(2時間)・地域に伝わる伝統芸能の歴史にできる踊りをする

洋野町立中野中学校 3 学年 「洋野の未来を考えよう～洋野町の発信・将来の創造」

【実践のねらい】

洋野町の課題を分析し、修学旅行で見聞きしてきたことと洋野の良さを融合し、洋野の未来の発展について考える。そのために、首都圏の産業から洋野町に役立てられることはないかという視点を持ちながら参加する修学旅行において、中野ブロードウェイでの地元特産品の販売体験活動や、海に関わる個人テーマを学習する施設見学などを行う。また、首都圏出身者である洋野町復興支援員による講演会で、自分たちの住む洋野の魅力や、海を再確認し、地域を誇りに思う心を育む。洋野の未来について考え発信することを通して、将来を想像する力を高め、最終的に「洋野について自分たちの言葉で語ることのできる人間」の育成を目指す。

○時数 4月から3月（総合的な学習の時間）

○関連 国語、理科、社会科、英語科、技術・家庭科

○目標 ・キャリアアップ研修を通して、他地域と洋野を比較し地元の課題を見付け、地元の良いところを探ることが出来る。

・地域での職場体験を通し、働くことの意味や働く人の思いについて考えを深めることができる。

・「海」を視点とし、様々な問題状況の中から、課題を発見・設定することができる。

・各教科で身につけた専門知識や情報を比較したり関連付けたりして問題解決に向けて考えられることができる。

・地域の一員としての自覚を持ち、郷土を愛する心を培い、現在そして将来、生まれ育った地域や自分の住む場所の発展を考えられることができる。

主な連携機関	内容	容
東横商店、稲荷商店、洋野町商工会、食品、稲荷商店、洋野町商工会、個人テーマに関わる施設	洋野町PR大作戦（東京都中野区）での洋野町物産品の販売	
洋野町役場	海に関わる個人テーマの追究	
ひろのまきば五文台	施設見学	
洋野町立中野小学校	海洋情報、授業参観、拡大校内研修会	
中野ふじの会	伝統芸能「オニヤドカラ」の学習会、練習会	
中野地区コミュニティ協議会	海洋情報、地域貢献活動	
なかの保育園	保育体験学習	

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
紹介式、始業式 入学式 身体測定 英力テスト 交通安全教室 生徒会入会式	運動会 青少年劇場 地区通信機上	地区中総体 期末テスト	地区合唱交流会 果中総体 校内合唱交流会	始業式 地区陸上 英力テスト 身体測定	地区新人戦 IBC こと音楽コ ンクール 中間・前期テスト	生徒会役員選挙 果中総体 町音楽発表会 文化祭	生徒総会 期末テスト 県中文祭	校内合唱交流会	3学期始業式 実力テスト 三送会	期末・後期テスト	修了式 卒業式

学校行事	「洋野の未来を考えよう～洋野町の発信・将来の創造」(38時間)												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
活動の流れ	オリエンテーション(1時間)	①海に関わる施設見学(海を知る・海に親しむ・海を守る)利用する(2時間) ・都市部の特性を生かした産業や、海に関わる個々のテーマについて学ぶ。 ②洋野町PR大作戦(海を知る・利用する)(15時間) ・洋野町の特産品のアドバイザーポイントを考え販売ポスターなどを作る。 ・ふるさと大使任命式 ・洋野町PR大作戦のためにPRを考え、宣伝したり、販売したりする。 ・修学旅行のまとめ。	③洋野の魅力を伝えよう(海を知る・海に親しむ・海を守る)利用する(2時間) ・首都圏出身の復興支援員さんの講演を聞き、今まで知らなかった洋野町について知る。	④専攻班プロジェクト・学習のまとめ・発表(13時間) ・グループごとに洋野町の課題について考え、課題を解決するためのテーマを決める。 ・テーマごとに夢実現プロジェクトを立ち上げ、施設の概要や必要性についてまとめる。 ・説得力のあるプレゼンテーションやパワーポイントの作り方について理解する。 ・グループごとに発表を見合い、改善点を伝え、よりよい発表を目指す。 ・文化祭において、地域の方に向けて発表をする。	有家族清掃(海を守る)(2時間)	⑤専攻班発表(海を知る・海に親しむ・海を守る)利用する(2時間) ・「海」を視点とし、様々な問題状況の中から、課題を発見・設定することができる。 ・各教科で身につけた専門知識や情報を比較したり関連付けたりして問題解決に向けて考えられることができる。 ・地域の一員としての自覚を持ち、郷土を愛する心を培い、現在そして将来、生まれ育った地域や自分の住む場所の発展を考えられることができる。	⑥専攻班発表(海を知る・海に親しむ・海を守る)利用する(2時間) ・「海」を視点とし、様々な問題状況の中から、課題を発見・設定することができる。 ・各教科で身につけた専門知識や情報を比較したり関連付けたりして問題解決に向けて考えられることができる。 ・地域の一員としての自覚を持ち、郷土を愛する心を培い、現在そして将来、生まれ育った地域や自分の住む場所の発展を考えられることができる。	⑦専攻班発表(海を知る・海に親しむ・海を守る)利用する(2時間) ・「海」を視点とし、様々な問題状況の中から、課題を発見・設定することができる。 ・各教科で身につけた専門知識や情報を比較したり関連付けたりして問題解決に向けて考えられることができる。 ・地域の一員としての自覚を持ち、郷土を愛する心を培い、現在そして将来、生まれ育った地域や自分の住む場所の発展を考えられることができる。	⑧専攻班発表(海を知る・海に親しむ・海を守る)利用する(2時間) ・「海」を視点とし、様々な問題状況の中から、課題を発見・設定することができる。 ・各教科で身につけた専門知識や情報を比較したり関連付けたりして問題解決に向けて考えられることができる。 ・地域の一員としての自覚を持ち、郷土を愛する心を培い、現在そして将来、生まれ育った地域や自分の住む場所の発展を考えられることができる。	⑨専攻班発表(海を知る・海に親しむ・海を守る)利用する(2時間) ・「海」を視点とし、様々な問題状況の中から、課題を発見・設定することができる。 ・各教科で身につけた専門知識や情報を比較したり関連付けたりして問題解決に向けて考えられることができる。 ・地域の一員としての自覚を持ち、郷土を愛する心を培い、現在そして将来、生まれ育った地域や自分の住む場所の発展を考えられることができる。	⑩専攻班発表(海を知る・海に親しむ・海を守る)利用する(2時間) ・「海」を視点とし、様々な問題状況の中から、課題を発見・設定することができる。 ・各教科で身につけた専門知識や情報を比較したり関連付けたりして問題解決に向けて考えられることができる。 ・地域の一員としての自覚を持ち、郷土を愛する心を培い、現在そして将来、生まれ育った地域や自分の住む場所の発展を考えられることができる。	⑪専攻班発表(海を知る・海に親しむ・海を守る)利用する(2時間) ・「海」を視点とし、様々な問題状況の中から、課題を発見・設定することができる。 ・各教科で身につけた専門知識や情報を比較したり関連付けたりして問題解決に向けて考えられることができる。 ・地域の一員としての自覚を持ち、郷土を愛する心を培い、現在そして将来、生まれ育った地域や自分の住む場所の発展を考えられることができる。	⑫専攻班発表(海を知る・海に親しむ・海を守る)利用する(2時間) ・「海」を視点とし、様々な問題状況の中から、課題を発見・設定することができる。 ・各教科で身につけた専門知識や情報を比較したり関連付けたりして問題解決に向けて考えられることができる。 ・地域の一員としての自覚を持ち、郷土を愛する心を培い、現在そして将来、生まれ育った地域や自分の住む場所の発展を考えられることができる。
他教科との関連	【理科】「水溶液とイオン」 【技術】「パソコン操作」(通年)	【国語】「評価しながら聞く」 【社会】「現代の日本と世界」	【国語】「絶滅の意味」	【国語】「素材を生かして表現する」 【理科】「炭素の循環」 【産業】「炭素の循環」	【国語】「編集して伝えよう」 【理科】「自然環境の調査と環境保全」(天文台見学)	【国語】「説明する」 【条件スピーチ】「家庭」 【地域貢献活動】「地域貢献活動」	【国語】「私たちの暮らしと経済」 【英語】「Clean Energy Sources」 【家庭】「Clean Energy Sources」 【体育】「体育体験学習」	【社会】「私たちの暮らしと経済」 【英語】「Clean Energy Sources」 【家庭】「Clean Energy Sources」 【体育】「体育体験学習」	【国語】「メディアと東日本大震災」 【社会】「地球社会と私たち」	【理科】「地球と私たちの未来のために」 【自然の恵みと災害】	【理科】「地球と私たちの未来のために」 【持続可能な社会を作るために】		

3 総合的な学習の時間 運営計画

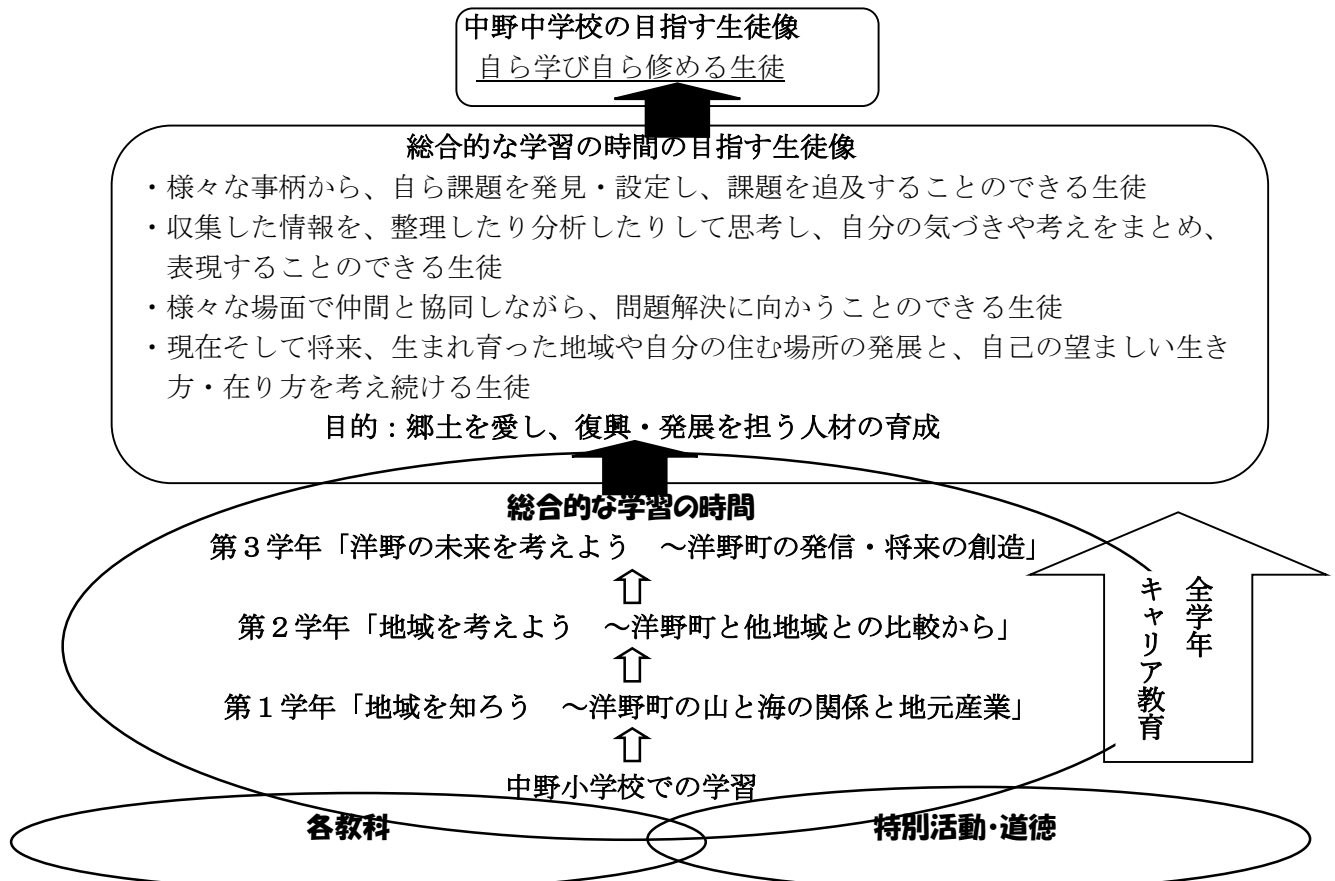
平成 29 年度洋野町立中野中学校 総合的な学習の時間 運営計画

1 学習テーマ「自ら学ぼう～海洋教育を視点とした洋野の自然・人・社会とのふれあいから～」

2 学年テーマ・学年到達目標

- (1) 第1学年「地域を知ろう ～洋野町の山と海の関係と地元産業」
 - ・地元の企業、自然を活用した様々な活動を通して、洋野の海と山の関係から地元の良さを知り、地元に対する興味・関心を深める。
 - ・課題設定や課題解決・追究活動に主体的に取り組む。
- (2) 第2学年「地域を考えよう ～洋野町と他地域との比較から」
 - ・さまざまな活動を通して、他地域と洋野を比較し地元の良さについて考えるとともに、職業観や勤労観を養いながら、将来を考える能力を高める。
 - ・課題設定や課題解決・追究活動に主体的に取り組み、他と協働して物事に取り組む姿勢を身につける。
- (3) 第3学年「洋野の未来を考えよう ～洋野町の発信・将来の創造」
 - ・洋野の良さを生かした洋野の未来を考え発信することを通し、地域を誇りに思い、将来を創造する能力を高める。
 - ・課題設定や課題解決・追究活動に主体的に取り組み、さまざまな係わりの中から自分らしさを求めて想像する能力を高める。

3 総合的な学習の時間を通して目指す生徒像



※各教科においては、海洋教育に関わりがある部分について可能な範囲で取り入れる

4 今年度の重点

(1) 課題追及能力の育成

様々な事柄から、「海」を視点とし、自ら課題を発見・設定し、課題を追及する力を高める。また、課題を解決するために、各教科で身につけた専門知識や情報（非連続型テキスト）を収集・分析する力を高める。

【総合的な学習の時間、キャリア教育、各教科】

(2) 表現力の育成

調査・体験したこと、自分の考えをまとめ、発表することで表現力の育成を図る。また、他の級友や学年の発表を聞き、質問・評価し合うことで、発表の力を高める。

【体験活動のまとめの発表：ポスターセッション、個人新聞など】

【講演会等の感想発表】

【他学年との交流、文化祭での発表、展示】

(3) 人とのかかわり

グループでの教え合いや、地域の方とのかかわりなどを通して、他者と協同して課題を解決しようとする活動を重視する。

【1年：地元企業訪問・講演 2年：地域の産業や環境について学ぶ 3年：個人研究】

【全学年：地域特産品の販売】

(4) 地域への貢献

総合的な学習の時間で学んだことを、地域のために生かす場面を設ける。

【体験学習のお礼、地域でのボランティア活動、地域の将来像の考察など】

5 評価の観点

3年間で身につけたい力			
人間関係形成	意思決定	情報活用	将来設計
<ul style="list-style-type: none"> 他者の良さや気持ちを理解できる。 よりよい方向へ意見を出し合うためのコミュニケーションが図れる。 互いに教えあうなど協力して活動できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 物事を論理的に判断し、自分の意見を言える。 判断や決定には自分の責任が伴うことを理解する。 自らの状況を客観的に把握し、その考えを整理できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 情報収集の方法を選択し、調査活動ができる。 職場体験などを通して、集めた情報を評価し、整理できる。 集めた情報を自分で分析し、論理的に発表できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活や学習と、将来の行き方とを関連させて考えることができる。 将来の進路希望に基づいて目標を立て、その達成に向けて努力できる。
かかわる力	考える力	伝える力	磨く力

4 実践計画について

本校の総合的な学習の時間 運営計画に基づいた海洋教育の実践計画

【総合的な学習の時間の各学年のテーマ・概要・活動計画・教科との関連】

1学年	
テーマ	「地域を知ろう～海と山の関係」
概要	<ul style="list-style-type: none"> 地元の企業、自然を活用した様々な活動を通して、洋野の海と山の関係から地元の良さを知り、地元に対する興味・関心を深める。 課題設定や課題解決・追究活動に主体的に取り組む。
教科との関連	<ul style="list-style-type: none"> 国語科、理科、社会科、美術科、技術・家庭科

活動計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 森は海の恋人の学習 ・ 地元企業の事業と海の関係の学習 ・ なめこの植菌作業 ・ 三陸あわび茸の菌床ポットづくり ・ 大野地区の産業と海洋の係わりについて ・ 文化祭での洋野町物産品の販売 ・ 商品のラベル作成 ・まとめと発表
------	--

2 学年	
テーマ	「地域を考えよう～洋野町と他地域との比較から」
概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ さまざまな活動を通して、他地域と洋野を比較し地元の良さについて考えるとともに、職業観や勤労観を養いながら、将来を考える能力を高める。 ・ 課題設定や課題解決・追求活動に主体的に取り組み、他と協働して物事に取り組む。
教科との関連	・ 国語科、理科、社会科、技術・家庭科
活動計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ キャリアアップ研修（岩手県盛岡市）での洋野町物産品の販売 ・ 仙北市の再生可能エネルギー・産業などの学習と洋野との比較 ・ 三陸あわび茸の収穫 ・ まとめと発表 ・ 地元地域での職場体験 ・ 修学旅行に向けた販売準備

3 学年	
テーマ	「洋野の未来を考えよう～洋野町の発信・将来の創造」
概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 洋野の良さを生かした洋野の未来を考え発信することを通し、地域を誇りに思い、将来を創造する能力を高める。 ・ 課題設定や課題解決・追求活動に主体的に取り組み、様々な係わりの中から自分らしさを求めて創造する能力を高める。
教科との関連	・ 国語科、理科、社会科、数学科、英語科、技術・家庭科
活動計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 修学旅行（東京都中野区）での洋野町物産品の販売 ・ 洋野町復興支援員による「洋野の良さ」講演 ・ 海成段丘の地形を生かした「ひろのまきば天文台」での天体観測 ・ 洋野の良さを生かした未来について考え発信するグループ研究 ・ まとめと発表

全学年	
テーマ	「自ら学ぼう ～海洋教育を視点とした洋野の自然・人・社会とのふれあいから～」
概要	
教科との関連	・ 国語科、理科、社会科、数学科、英語科、技術・家庭科
活動計画	・ 小中合同海岸清掃、伝統芸能「ナニヤドヤラ」取組、地域に向けた情報の発信

5、各学年の実践

(1) 総合的な学習の時間 各学年学習指導案

【1 学年】

総合的な学習の時間学習指導案

日 時 平成29年 10 月 20 日(金) 5 校時
学 級 1 年A組(男子 9、女子 3 名 計 12 名)
場 所 1 年A組教室
授業者 村松康司・藤堂文隆・米澤博幸

1 単元名 「地域を知ろう ～洋野町の山と海の関係と地元産業～」

2 単元設定の理由

(1) 生徒の実態から

生徒は小学校4年生から海洋教育に取り組んでおり、体験的な学習や個人テーマに基づいた課題解決的な学習を通して、多くの知識や技能を身につけている。特に、グループ活動における話し合いや資料作成、発表の仕方などは中学校 1 年生の段階としては優れたレベルにあると思われる。小学校6年生時に「東北海洋子どもサミット in 気仙沼」に参加しており、その大舞台での経験が大きな自信となって、今なお海洋に対する興味や関心、意欲につながっている。中学校の総合の学習においても、考えたり、意見を交わしたりする活動に、小学校での知識や経験が生かされており、さらに発展した内容での学習を実践していくためには、より具体的・専門的な学習を行っていく必要がある。

(2) 単元で育成したい資質や能力及び態度

【学習方法に関すること】

- ・小学校などで身につけた知識や技能を活かしながら、自分たちで設定した課題解決に向け、情報の収集と分析をして、問題解決することができる。

【自分自身に関すること】

- ・問題解決の過程で、いろいろな情報を整理し、自分の意見や考えを伝えることができる。

【他者や社会に関すること】

- ・地域とかかわる探究的な学習を通して、地域の一員としての自覚を持ち、洋野町の良さを発信することができる。

(3) 教材について

海に面した地域に暮らす漁業関係者や子ども達が、山で広葉樹の苗を植えたり、間伐などの森林整備を行う活動が全国的に広がり、豊かな海を作るために大きな成果を上げている。洋野町も、海と山に囲まれた地域にあることから、海が山や川の環境、さらに人間の生活にも大きく関わっていると考えられる。

こうしたことから、洋野町の土地や気候を生かした題材を取り上げ、学習活動を展開することは、海との関わりについて課題意識を持ち、生徒が主体的に学習を進めていくことができるものとする。また、自分たちの地域にとって、いかに海が大切なものであるかを再認識できるきっかけとなるとともに、洋野町の良さを知り、自分たちの手でさらに発展させていこうとする意識を育てることができるものであると考え本単元を設定した。

3 単元目標

- ・目的にふさわしい情報収集のしかたを知ることができる。
- ・まとめ方のプロセスを知り、学習の成果をまとめることができる。
- ・調査活動等を通して自分らしさや自己の成長を発見することができる。

4 単元の評価規準

	学習方法に関すること	自分自身に関すること	他者や社会に関すること
評価規準	・小学校などで身につけた知識や技能を活かしながら、自分たちで設定した課題解決に向け、情報の収集と分析をして、問題解決することができる。	・問題解決の過程で、いろいろな情報を整理し、自分の意見や考えを伝えることができる。	・地域とかかわる探究的な学習を通して、地域の一員としての自覚を持ち、洋野町の良さを発信することができる。

5 単元指導計画

段階	時数	海洋観点	活動内容	評価方法
課題設定	2	知	○オリエンテーション ・追Qの3年間の見通しと、1年次の学習について確認する。	行動観察
情報の収集	6	知 知利 知 知 親知 守利	○講義「長根商店の事業と海との関わり」 ・きのこ海との関わりに通いて知る ○三陸あわび茸の菌床ブロックづくり ・三陸あわび茸の菌床ブロックづくり実習 ○講義「大野地域の産業や暮らしと海洋とのかかわり」 ・海成段丘と大野地域の産業や暮らしについて学ぶ ○DVD「カキ養殖人 畠山重篤」 ・DVDを視聴し、海と山との関係について学ぶ ○海岸清掃 ・有家浜の清掃活動	行動観察 ワークシート
課題追求(整理・分析)	14	知利 知利 知利	○テーマの決定 ・グループごとに発表テーマを決定する ○発表の準備 ・ポスターセッション形式による発表のためのポスターを作成し、発表原稿を考える ○販売商品の学習と実習 ・文化祭での販売実習の商品について説明を聞く。 ・販売する商品のラベル貼り ○販売実習準 ・お客様に買ってもらうための商品のセールスポイントを考える	行動観察 ワークシート
まとめ・表現	5	知利 知利 知利	○プレ発表会 ・ポスターセッションでよりわかりやすく伝えるための工夫を話し合う(本時) ○文化祭での発表 ○文化祭での販売	発表の様子 ワークシート 行動観察

6 本時の指導

(1) 本時の目標

「洋野町の産業と海洋と山は、それぞれ関連性があるのではないだろうか」のまとめを、ポスターセッションでより分かりやすく伝えることができる工夫を話しあう。

(2) 本時の評価基準

身に付けさせたい 資質や能力	評価基準	支援を要する生徒への手立て
学習方法に 関すること	自分たちで役割分担ができ、円滑な話し合いをすることができる。	グループでの役割を果たせるように、声掛けを行い、支援していく。
自分自身に 関すること	事前に行った発表の映像を見て、そのことについての意見を発表することができる。	班員の意見を聞き、他の班や自分たちの発表をどのように工夫したら良くなるか、ワークシートにまとめさせる。

(3) 展開案

段階	学習内容	学習活動	指導上の留意点と 評価の工夫 ☆留意点 ◎評価
導入 5分	・本時の目的と内容の確認	・本時の学習の流れを確認し、見通しを持つ。 1班: 山と海 2班: 地元産業 3班: 海成段丘	担当: 藤堂先生 担当: 村松先生 担当: 米澤先生
より分かりやすく伝えることができる工夫を話し合おう			
展開 40分	・自分とは違う班の発表のビデオ映像を見る(10分) ・話し合い①(5分) ・班交流(5分) ・自分たちの班の発表のビデオ映像を見る(10分) ・話し合い②(10分)	・各班、班隊形にて討論形式で見る。 ・良い点/改善点を探す。 ・質問があるならプリントに書き込む。 ・班で話し合い、プリントをまとめる。 ・代表者が班で話し合った意見を伝える。 ・良い点/改善点を探す。 ・交流で指摘された点を意識しながら見る。 ・自分たちのポスターセッションをどう工夫したらより良くなるか話し合う。	◎ 話し合いの役割分担ができている。 ☆ 悪い点を探させず、建設的な意見が出るように導く。

			◎ 話し合いの役割分担ができてい る。 ☆話し合いの方向性 がズレないように導 く。
ま と め 5 分	・話し合いの結果を 発表 ・本時の学習の振り 返り	・ 班長から簡潔に数点あげてもら う。 ・ 本時の学習を振り返り、自分の発表についての、よ かった点や改善点を整理させる。 ・ 次時の学習について確認する。	☆担当はどれが良い か確認しておく。 ◎より伝わりやすい 適切な発表をめざし た、ポスターセッションの振り返りをしてい る。

(4) 板書計画

<p>10月20日</p> <p>学習課題</p> <div style="border: 1px solid green; height: 40px; margin-bottom: 20px;"></div> <div style="border: 1px solid green; height: 80px;"></div>	<p>今日のポイント</p> <div style="border: 1px solid green; height: 180px; border-radius: 20px;"></div>	<p>各班の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1 班 ・ 2 班 ・ 3 班
--	---	--



○今日の流れ

1 他の班のビデオ ↓	2 他の班用プリント (班の話し合い①・役割) ↓	3 他の班との交流 (発表者①) ↓	4 自分たちのビデオ ↓	5 自分たちの班用プリント (班の話し合い②・役割) ↓	6 自分たちの班の工夫 工夫 ↓	7 今日の評価
10分	5分	5分	10分	10分	3分	2分

○学習課題

○今日のポイント

- ・ 他の班のビデオのときは、とにかく良い点を探してあげよう。(自分たちのためになります)
- ・ 「こうしたらもっと良くなる」のような改善点があったら、代案まで考えてあげよう。
(他の班と建設的な意見交流ができます)
- ・ 「もっと説明が欲しい」、「いまいち分からなかった」など、もっと知りたい内容だったことがあれば教えてあげましょう。(チーム中野中1年生のポスターセッションのレベルの底上げになります)
- ・ ホワイトボードを活用しながら、班での交流をしましょう。(他の班員の意見が分かりやすくなります)
- ・ 自分たちの班用では、他の班からの意見を参考にして、いろいろな視点からアイデアを出し、どうすればもっと良くなるかを熱く話し合いをしましょう。
- ・ ビデオでの発表者の声の大きさや聞き取りやすい速さなのか、評価してあげましょう。

○今日の評価

自己評価	A-できた B-少しできた C-できなかった	自己評価について、具体的書いて下さい。
自分たちで役割分担ができ、円滑な話し合いをすることができた。		
事前に行った発表の映像を見て、そのことについての意見を発表することができた。		

班

チェックシート（他の班用）

記入者名 _____ 班 _____

評価の観点	評価
1. 声の大きさは適当であったか	良い 4・3・2・1 良くない
2. 相手の聞き取りやすい速さで話がされているか	良い 4・3・2・1 良くない
3. 発表の内容を理解することができたか	できた 4・3・2・1 分からなかった

◎ 良い点

△ 改善点

- ・ 質問／内容がよくわからない点／説明がもっと欲しい点

記入欄は縮小して
掲載しています。

班

チェックシート（自分たちの班用）

記入者名 _____ 班 _____

評価の観点	評価
1. 声の大きさは適当であったか	良い 4・3・2・1 良くない
2. 相手の聞き取りやすい速さで話がされているか	良い 4・3・2・1 良くない
3. 発表の内容を理解することができたか	できた 4・3・2・1 分からなかった

◎ 良い点

△ 改善点

- ☆ 班として、工夫するところ・手直しが必要なところ

記入欄は縮小して
掲載しています。

【2学年】

平成29年度 洋野町立中野中学校 総合的な学習の時間学習指導案

日 時 平成29年7月6日(木)

学 級 2年A組(男子6名、女子11名、計17名)

場 所 2年A組教室

授業者 谷藤貴彦 島川厚志

1 単元名 「地域を考えよう ～洋野町と他地域との比較から～」

2 単元設定の理由

(1) 生徒の実態から

本学級の生徒は、1年次の追Qの学習で「洋野町の山と海の関係と地元産業」について、実習を中心に体験的な学習を行ってきた。実習で得た情報をもとに、調査活動を行い、レポートや模造紙にまとめ、ポスターセッションで発表する表現活動を行ってきた。その様子を見ると、グループによる意見交流や調査活動、まとめの発表などは小学校からの積み重ねもあり比較的慣れている。しかし、発表の内容が浅く、深く掘り下げて考えるまでに至っていない。

(2) 単元で育成したい資質や能力及び態度

【学習方法に関すること】

・身に付けた知識・技能を活用しながら、必要な情報を収集・分析し、相手や目的、意図に応じて論理的に表現することができる。

【自分自身に関すること】

・課題解決の過程で、学び方や考え方を身につけるとともに、自分の意見や考えを堂々と伝えることができる。

【他者や社会に関すること】

・自分の住む地域の特徴を生かし、友達の意見や学習の成果を参考にして、課題を解決することができる。

(3) 教材について

キャリアアップ研修において班別自主研修の場所となった秋田県仙北市の角館は、歴史ある武家屋敷や桜並木、伝統工芸品など昔の街並みや歴史を生かした観光の名所である。今回の学習では、角館と私たちが住む洋野町という特徴の大きく異なる2つの地域を比較しながら、それぞれの良さについて探究させていきたい。他地域の良さを知ることは、自分たちの住む洋野町の良さを再認識する手立てとなり、さらには洋野町の未来の発展を考えていく具体的な視点になると考え、本単元を設定した。

3 単元目標

- ・身に付けた知識・技能を活用しながら、必要な情報を収集・分析し、相手や目的、意図に応じて論理的に表現する力を高める。
- ・課題解決の過程で学び方や考え方を身につけるとともに、自分の意見や考えを堂々と伝えることができる。
- ・自分の住む地域の特徴を生かし、友達の意見や学習の成果を参考にして、課題を解決するために資質や能力を形成していく。

4 単元の評価規準

	学習方法に関すること	自分自身に関すること	他者や社会に関すること
評価規準	身に付けた知識・技能を活用しながら、必要な情報を収集・分析し、相手や目的、意図に応じて論理的に表現しようとしている。	課題解決の過程で、学び方や考え方を身につけるとともに、自分の意見や考えを堂々と伝えている。	自分の住む地域の特徴を生かし、友達の意見や学習の成果を参考にして、課題を解決しようとしている。

5 単元指導計画

段階	時数	海洋 観点	活動内容	評価方法
課題設定	10	知 知 親知	○ガイダンス ・今年度の追Qの学習について確認する。 ○キャリアアップ研修事前学習 ・ねらいと課題の確認を行う。 ・班毎に班別自主研修のテーマを話し合う。 ○キャリアアップ研修に向けて ・販売実習で販売する商品の説明を聞く。 ・販売実習準備をする。(役割分担、必要物品の準備)	ワークシート 行動観察
情報の収集	12	親利 知 知 知	○盛岡での販売実習 ・洋野町PR大作戦として洋野町の特産品を販売 ○班別自主研修 ・洋野町と角館市を比較しながら班別に研修を行う。 ○再生可能エネルギーについて ・仙北市のバイオマスエネルギーと無人走行バスについての講義を聴く。 ○キャリアアップ研修 ・販売実習、班別自主研修のまとめを行う。	行動観察 しおり記録
課題追究 (整理・分析)	6	知利 知利 知利	○学びの整理 ・洋野町と角館市の比較をしながら、洋野町の良さについての新たな発見・気づきを整理する。 ○まとめ発表の準備 ・発表案の構成を行い、発表原稿を作成する。 ○発表用デジタル資料作成・練習 ・パワーポイントによる発表資料を作成し、発表の練習を行う。	ワークシート 行動観察
まとめ・表現	4	知利 知利	○プレ発表会 ・ 発表の練習・確認、発表内容の修正を行う【本時】 ・相互評価し合い、改善点を踏まえ修正し仕上げる。 ○文化祭での発表	発表の様子 相互評価 自己評価 ワークシート

6 本時の指導

(1) 本時の目標

- ①プレ発表を行い、各班の発表に対して相互評価をし、改善策を考えることができる。
- ②一人一人が自分のグループの発表内容を理解し、伝わりやすく発表することができる。

(2) 本時の評価規準

身に付けさせたい 資質や能力	評価規準	支援を要する生徒への手だて
学習方法に 関すること	発表の内容や表現方法を評価することができ、良かった点や改善点について伝えることができる。	積極的に自分の意見を伝えられるように、声掛けを行い、支援していく。
自分自身に 関すること	内容を理解して、伝わりやすく発表することができる。	発表の内容について整理させ、発表会に向けてグループで確認させる。

(3) 展開案

段階	学習内容	学習活動	指導上の留意点と評価の工夫 ☆留意点 ◎評価
導入 5分	1. 本時の目的と内容の確認	・本時の学習の流れを確認し、見通しを持つ。	
プレ発表を行い、伝わりやすい発表にするための工夫について考えよう。			
展開 40分	2. プレ発表 ○発表 ○意見交流 (1つの発表ごと)	<ul style="list-style-type: none"> ・プレ発表のやり方を確認する。 ・各班のメンバー1人ずつで構成された4(5)人1組のグループを作り、グループ内で1人ずつ自分の班の発表を行う。 ・評価者は、簡単にメモを取りながら発表を聞く。 ・評価者は、3つの視点の良かった点、改善すべき点を自由に出し合う。 ・発表者は、班協議のためにメモを取りながら評価者の意見を聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆発表を聞くときの3つの視点について意識させる。 (3つの視点) ①内容・伝えたい事について ②発表の仕方について ③映像表現について ◎自分の班の発表内容を理解し、伝わりやすく発表している。(観察・ワークシート) ◎発表を聞いて相互評価をし、改善策など意見を述べている。(観察・ワークシート)
	3. 班協議	<ul style="list-style-type: none"> ・他の班の発表やグループメンバーの意見(メモ)等から、自分たちの発表内容を再吟味する。 ・時間があれば修正作業を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆具体的な改善ポイントを整理させる。

ま と め 5 分	4. 本時のまとめ	・班協議を通して、発表内容について3つの視点から改善すべき点や付け加えたい点を発表する。	☆生徒の学習状況を確認、評価する。
	5. 本時の学習の振り返り	・本時の学習を振り返り、自己評価する。 ・班番の発表に向けて、発表の見直しをすることを伝える。	◎本時の学習課題についての振り返りができている（ワークシート）

(4) 板書計画

学習 課題	プレ発表を行い、伝わりやすい発表にするための工夫について考えよう。		班協議の内容から				
	<p>【今日の学習の流れ】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 プレ発表について 2 プレ発表+意見交流 3 班協議 4 班協議のまとめ発表 (各班1名) 5 振り返り(数名発表) 	<p>【発表を聞く3つの視点】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①内容・つたえたいこと ②発表の仕方 ③映像表現 	<table border="1" style="width: 100%; height: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; text-align: center; vertical-align: middle;">1班</td> <td style="width: 50%; text-align: center; vertical-align: middle;">3班</td> </tr> <tr> <td style="width: 50%; text-align: center; vertical-align: middle;">2班</td> <td style="width: 50%; text-align: center; vertical-align: middle;">4班</td> </tr> </table>	1班	3班	2班	4班
1班	3班						
2班	4班						



【3学年】

平成 29 年度 洋野町立中野中学校 総合的な学習の時間学習指導案

日 時 平成29年 6月12日(月) 5校時

学 級 3年A組(男子9名、女子9名 計18名)

場 所 3年A組教室

授業者 高橋 健太郎(T1) 田毛 亜紀(T2)

(年間指導計画)

月	観点	第1学年	観点	第2学年	観点	第3学年
4	知	ガイダンス・小学校総合学習の紹介	知 知利 利 知利 守	ガイダンス(「洋野町の将来の姿」説明) キャリアアップ研修準備 販売実習の準備 再生可能エネルギーについて	知 親 知 親利 知 知 知	ガイダンス ふるさと大使任命式 職業体験(修学旅行) 販売体験 班別自主研修 修学旅行のまとめ 修学旅行報告会
5	知 知利 知利	カキ養殖人講義(長根商店さんの事業と海) 実習①(なめこの植菌作業) 私たちの夢	知利 親利 知利 守	キャリアアップ研修準備 販売実習 再生可能エネルギー施設見学 働くことと学ぶこと	知 利	講義(洋野の良さを知ろう) 個人テーマの設定
6	知利 知利	実習②(あわび茸菌床ブロックづくり) 講義(大野地域と海洋) 働くとは?職業とは?	知 知 知利	職場研修の班まとめ キャリアアップ研修発表 個人・グループ課題設定 私の能力と適正	利	課題追究
7	知利	課題追究 働く人々の姿	知利 守 知 知利	洋野町再生可能エネルギー施設見学 東大出前授業 課題追究	知利	課題追究 一日体験入学に参加してみよう
親 知 守 利 海岸清掃(全校)						
8	知利	課題追究 働く人の仕事と考え	知利	課題追究	知利	(高校体験入学) 課題追究
9	知利 知利	実習③(あわび茸収穫) 販売商品説明会	知利	再生可能エネルギーについてまとめ	知利	課題追究 心豊かに生きる
10	知利 親利 知	販売実習・発表の準備 海洋サミットに向けて 文化祭での販売・発表	知利 親利 知	職場体験・発表準備 海洋サミットに向けて なめこの収穫・加工 文化祭での発表 社会の一員として	知利 知利 知利 知	課題追究・まとめ 文化祭発表準備 海洋サミットに向けて 文化祭での発表 進路選択に備えて
文化祭に向けて(全校)						
11	知利 親利	課題追究 実習④(ラベル作成)	知 知	職場体験 職場体験まとめ 種市高校体験入学	知 利 利	課題追究・まとめ 洋野町将来像の創造 進路計画の最終検討
12	知	個人課題まとめ	知 知	職場体験まとめの発表 東京の訪問先調べ	知	卒業論文・制作完成・発表 面接試験の心得
1		職業の世界				面接練習
2 ・ 3	知	個人課題まとめの発表 生き方いろいろ	知 知	修学旅行に向けた準備 個人テーマの設定		入試の心構え 卒業時期を迎えて 夢に向かって

* **ゴシック体**:総合的な学習の時間以外の時間に学習する内容で総合に関わりのある内容

1 単元名 「洋野の未来を考えよう ～洋野町の発信・将来の創造」 39単位時間扱い

2 単元設定の理由

(1)生徒の実態から

生徒は真面目で素直であり、与えられた課題について一生懸命誠実に取り組むことができる。また、書く活動について比較的得意としている生徒が多い一方で、自由に自分の考えを持ち、表現することなど創造的な活動を苦手とする一面がある。

そこで、総合的な学習の時間において、洋野町が推進する「ひろの学」の視点を取り入れ、昨年度及び今年度の学習をふまえ、さらにこの地域の良さを学び、今後の洋野町の未来について考えることとした。

この学習を通して、生徒が創造的に思考し、論理的検証を経験する中で、自分の意見や考えを根拠をもって発信することができる力を育成し、表現力を高めたい。

(2)単元で育成したい資質や能力及び態度

【学習方法に関すること】

- ・「海」を視点に自分たちが設定した課題に対して、身に付けた知識・技能を活用しながら、他者と協働し、情報を収集・分析し、課題解決することができる。

【自分自身に関すること】

- ・課題解決の過程で人との出会いに感謝しながら、学び方や考え方を身につけるとともに、自分の意見や考えを堂々と伝えることができる。
- ・地域と自分とのかかわりを踏まえて、自己の将来の生き方について考えることができる。

【他者や社会に関すること】

- ・「海」を視点に地域とかかわる探求的な学習を通して、地域の一員としての自覚を持ち、郷土を愛する心を培い、現在そして将来、生まれ育った地域や自分の住む場所の発展を考えることができる。

(3)教材について

生徒が暮らす洋野町は岩手県の最北端に位置する、人口約17000人の太平洋に面した町で、海の他に、山・川と、自然の循環構造を有している。縦にも横にも広いため、少し移動しただけで、地理・地形・文化など全く違う魅力をもつ町でもある。しかし、将来、地域発展の担い手として期待される生徒は、地域の魅力についてあまり知らない状況である。

3年生は、2年生で、「地域を考えよう ～洋野町と他地域との比較から」をテーマに、地元企業の商品販売体験や、地元の資源を生かした再生可能エネルギーの検証、地域での職場体験を通して、地域の良さを学んできた。それらを土台とし、3年生では洋野の良さを生かした洋野の発展的な未来を考え発信する学習を行う。「海」を視点に地域とかかわる探求的な学習を通して培う、地域の一員としての自覚や郷土を愛する心は、現在そして将来、生まれ育った地域や自分の住む場所の発展を考える礎となると期待し、本単元を設定した。

3 単元目標

郷土を愛し、復興・発展を担う人材の育成を目的とするため、以下の目標を設定した。

- ・「海」を視点に、より地域を発展させるための課題を設定し、地域とかかわる探求的な学習を通して、地域の良さに気づき、課題を解決するために資質や能力を形成していく。
- ・課題解決の過程で人との出会いに感謝しながら、創造的思考力や論理的思考力を身につけるとともに、自分の意見や考えを根拠をもって堂々と発表することができる。
- ・地域の一員としての自覚を持ち、郷土を愛する心を培い、現在そして将来、生まれ育った地域や自分の住む場所の発展を考える態度を養う。

4 単元の評価規準

	学習方法に関すること	自分自身に関すること	他者や社会に関すること
評価規準	<ul style="list-style-type: none"> ・「海」を視点とした課題を設定することができる。 ・身に付けた知識・技能を活用しながら、他者と協働し、情報を収集・分析している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題解決の過程で人との出会いに感謝しながら、学び方や考え方を身につけるとともに、自分の意見や考えを堂々と伝えている。 ・地域と自分とのかかわりを踏まえて、自己の将来の生き方を考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の一人としての自覚や、郷土を愛する心が育っている。 ・現在そして将来、生まれ育った地域や自分の住む場所がどうすれば発展するかを考えている。

5 単元指導計画

学習過程	時数	海洋観点	活動内容	指導のポイント	評価方法
ガイダンス	1	知	学習の目的	・「洋野の未来を考えよう ～洋野町の発信・将来の創造」の学習の目的を理解させる。	ワークシート
ふるさと大使任命式	2	親	ふるさと大使としての自覚を持つ	・任命式への参加を通し、洋野町の代表として洋野町の良さをPRする自覚を持たせる。	行動観察
販売体験	3	親利	洋野町特産品の販売	<ul style="list-style-type: none"> ・洋野町や特産品の良さを伝えながら、商品を完売させる。 ・働くことの意義や働くうえで大切なことについて考えさせる。 	行動観察 しおり 修学旅行新聞
修学旅行のまとめ・表現	3	知	修学旅行のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・収集した情報を整理し、個人新聞にわかりやすくまとめさせる。 ・班別自主研修で学んできたことを整理し、グループで発表内容を考え、ICT 機器を活用し、わかりやすく伝えるように表現させる。 	修学旅行新聞 発表の様子 相互評価
講義	2	親知	洋野町復興支援員に学ぶ	・課題設定に向け、洋野町の魅力を知ることが意識させ、話を聞いたりメモをとらせたりする。	ワークシート 行動観察
課題の設定	2	利	「海」を視点とし地域を発展させることができそうな課題を設定	<ul style="list-style-type: none"> ・洋野町の良さを生かし、「海」を視点とし地域を発展させることができそうな課題を適切に設定する。 ・2, 3名のグループで1つのテーマと検証方法を決定させる。 	ワークシート 行動観察
課題追究 (情報の収集)	8	知利	テーマに応じた情報の収集	<ul style="list-style-type: none"> ・「海」を視点とした課題解決に対する必要な情報をメモしたり写真を撮ったりして記録させる。 ・対象の人に対して、課題解決に必要な視点で質問することができるように、マナーなどを指導する。 	ワークシート 行動観察
海岸清掃	2	親知 守利	有家浜の清掃	・活動の意義を考えさせ、積極的に参加するように促す。	行動観察
自らの探求					
課題追究 (整理・分析)	5	知利	課題に基づいた適切な情報の整理と分析	<ul style="list-style-type: none"> ・得た情報を、テーマや仮設との関係で、グラフ化して比較したり、関連付けたりさせる。 ・各教科で習得した知識や技術を使うように促す。 	ワークシート 行動観察

まとめ・表現	11	知利	「課題検証」のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> 目的、意図に応じてまとめ、相手に伝わる効果的な伝達方法を考え、わかりやすく表現させる。 自分の将来や地域の発展について考えることができたか評価する。 相互評価を行い、学習を通しての成長を確かめさせる。 	発表のようす 相互評価 自己評価
--------	----	----	------------	--	------------------------

6 展開案

段階	学習内容	学習活動	指導上の留意点と評価の工夫 ☆留意点 ◎評価
導入 5分	・本時の目的と内容の確認	・本時の学習の流れを確認し、見通しをもつ。	☆今年度の1時間目に配布したプリントを参照させ、学習の内容について確認させる。
	「洋野の未来を考えよう～海の視点を通して～」について、テーマを設定し、その実現の可能性を検証するために、根拠となる事柄は何かを考えよう。		
展開 40分	・テーマ設定に向けてのイメージを膨らませる (12分)	<ul style="list-style-type: none"> ・修学旅行で見たり、体験したり、調べたりしてきた東京と洋野の違いについて想起し、テーマ設定についてのイメージを膨らませる。 ・2年次に学習をした、「洋野町と再生可能エネルギー」について想起し、3年次の学習との結びつきを持たせることができるかどうかを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆写真を提示しながら、一つ一つ丁寧に扱っていく。この際、『提示した内容に「海の視点」を取り入れられるか』を意識させながら考えさせる。 ☆2年次に班ごとに作成したポスターを事前に掲示しておき、思い出しやすいように環境を整えておく。
	・テーマを設定し、根拠となる事柄は何か考える (15分)	<ul style="list-style-type: none"> ・2・3年で学習した内容を踏まえて、テーマを設定する。また、その実現の可能性について検証するために必要な根拠となる事柄は何か考え書き出す。 【個人】→【グループ】 	<ul style="list-style-type: none"> ☆宮本さんとの学習から、現在洋野町の魅力を活かすという観点も活用するように促す。 ◎洋野町の未来について、学習した内容をもとに、自分なりの考えを持つことができる(観察・ワークシート) ☆教師は各グループを回りながら、アドバイスをする。
	・班で交流し、深める (13分)	<ul style="list-style-type: none"> ・設定したテーマと根拠について、班で交流し、お互いに根拠の部分について、アドバイスしあう。 もしもテーマが同じになってしまった場合は、修正をする。 可能であれば、調査の方法についても確認をさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎伝わりやすい声の大きさや、速さを考えながら、聞き手目線で話ができる(観察) ◎聞き手は、相づちを打ったり、うなずきながら、笑顔で相手の話を聞こうとしている。発表に対し、自分の意見を述べている。(観察)

ま と め 5 分	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習の振り返り (5分) 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習を振り返り、自分の発表について整理させる。 ・次時の学習について確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎交流してみて、聞いてくれた仲間やアドバイスしてくれた仲間の良さに気付ける。また、自分の発表について客観的に自己評価することができる(ワークシート)
-----------------------	--	--	--

7 ワークシート

平成29年度 3学年総合的な学習の時間(海洋教育)ワークシート

洋野町の未来を考えよう～海の視点を通して～

氏名 _____

修学旅行

- 海に関して学んだこと
 - ・自主研修
 - ・東京海洋大学
- 修学旅行新聞に2つの記事を入れる**
- 東京と洋野町の比較
 - ・第三次産業がさかんな首都東京
 - 洋野町で町おこしに役立てられ
そうなことは?

例) 東京で見た水族館(臨海型・内陸型)

- どんな生物を飼育すれば良いか
- 建設費、維持費、集客はどのくらい見込めるのか
- 入場料はどのくらいで採算がとれるのか
- 場所は? 観光客を呼び込むための工夫
- 建設可能かどうか(理由・条件)

※訪問先ではレポート作成のため、たくさん質問してきましょう。

選択して深める、あるいは合わせる
(商業とエネルギー)

テーマの設定

(考えたことに海の視点を取り入れること)

追加調査

まとめ(レポート、発表)

メリット・デメリット

NOTE

(2) 各学年取組実践の様子

【1 学年】

〈地元企業（長根商店さん）の事業と海の関係の学習〉



〈三陸あわび茸の菌床ポットづくり〉



〈文化祭での洋野町物産品の販売〉



〈商品のラベル作成：長根商店の佐々木孝さんに商品説明を受け、美術科で作成〉



【2学年】

〈キャリアアップ研修（岩手県盛岡市）での洋野町物産品の販売〉



〈仙北市の再生可能エネルギー・産業などの学習と洋野との比較〉



〈ニューソーランの練習・発表〉

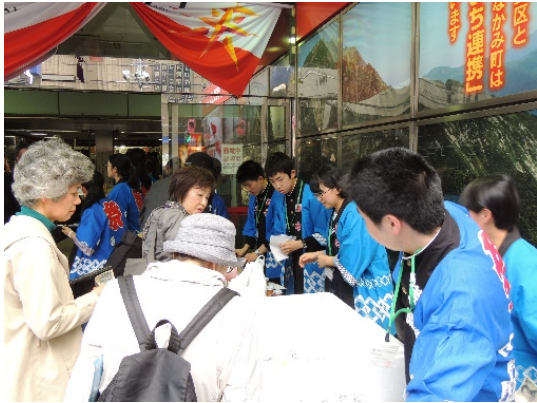


〈郷土食の調理実習：洋野町保健センター・食生活改善推進協議会の方と一緒に〉



【3学年】

〈修学旅行（東京都中野区）での洋野町物産品の販売〉



〈東京海洋大学での海洋学習〉



〈洋野町復興支援員・宮本慶子さんによる「洋野の良さ」講演〉



〈海成段丘の地形を生かした「ひろのまきば天文台」での天体観測：講師・阿部俊夫さん〉



(3) 全校取組実践の様子

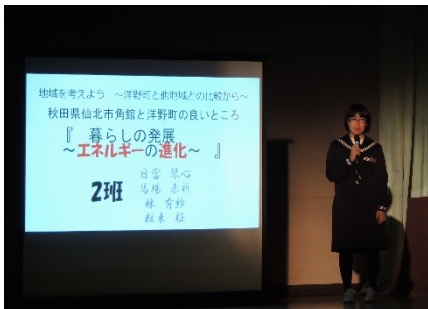
①小中合同海岸清掃「有家浜清掃」&洋野エモーション



②伝統芸能「ナニャドヤラ」取組&種市夏まつり・町文化祭・県中文祭参加



③地域に向けた情報の発信




(4) 海洋とつながる教科の生徒作品・コンクール応募作品

〈2学年国語科単元 調べて考えたことを伝えよう 「未来に残したい洋野の宝」レポート〉
生徒作品例


「洋野町の景色」
2年 A組 11番 城下 史織

皆さんは、洋野町の景色についてどう思いますか。洋野町には山や海などがあり、様々な景色が見られます。特に私が好きなのは、電車で見える海です。山の中から抜けて見えた時の海はとてもきれいです。私はこの景色を伝承していきたいです。なぜなら山や海を見ていると、とても安心するからです。皆さんも、時々海が見たくなることはありませんか。私は広い海を見ると何も考えずにいられるからだと思います。また、ずっと見ていられるので気持ちがいいです。そして、見た後安心して帰ることができると思います。でも、この景色を伝承していくことの難しさもあります。例えば、木が切られて建物ができたとき、景色は見づらくなるし、ここは人口が少ないので、電車がなくなるかもしれません。洋野町の景色は、ここからしか見れないものでした。だから、今のこの景色を大切にしていきたいです。



「日本一きれいな星空」
2年 A組 14番 馬場 未祈

みなさんが「日本一きれいな星空」を見れる場所は、どこだと思いますか。実は、洋野町なのです。洋野町の人口は、近くの久慈市や八戸市に比べても圧倒的に少ないです。しかし、その分、夜の町の明りが少ないため、夜空が暗く、星が輝いています。また、大野にある「まげ」天文台では大型望遠鏡を使って、様々な星を見ることが出来ます。また、大野海性段丘により、空に近いためとても星空が見やすいです。



しかし、高齢化が進み、人口も減っています。そんな中で、土地を管理したり、情報を伝える人たちが少なくなっている中で、日本中・世界中に伝える役割が私達にはあると思います。

〈平成29年度 第12回 洋野町少年少女詩歌コンクール受賞作品〉

【詩の部】
優良賞
三年 渡部 柚香

「流れ星」

夜空を見上げ 思い出を浮かべる
運動会 文化祭 部活動 友達とのおしゃべり
ああ 三年間の日々

夜空を見上げ 明日を願う
いいことありますように
ほら 小さな希望

夜空を見上げ 未来を想う
三年後 五年後 そしてその先
少し不安を抱えて

一瞬で
星は空を流れていく
夜空を流れる星のように
思い返せば一瞬の日々

輝きを放ちながら流れる星のように
堂々と生きていたい

〈東北電力作文コンクール入賞作品〉

秀
賞



笑顔の輪

岩手県洋野町立中野中学校

二年 大久保 理子

私が思う「笑顔の輪」、それは地域とのつながりだと思ふ。その「笑顔の輪」に私が入ることができなかつたけれど、「ナニヤドヤラ」である。

「ナニヤドヤラ」というのは、私の住む岩手県洋野町中野地区を含む、岩手県北部、青森県南部地方に古くから伝わる、太鼓、踊り手、歌い手の三つで構成された、日本最古の盆踊りのことである。私がこのナニヤドヤラを初めて踊ったのは、小学一年生の時。私が住む地域にある神社のお祭り、見よう見まねで踊ったのを今でも覚えている。その後、小学三年生になり、本格的に踊りを教わった。青年会のメンバーとしてナニヤドヤラの太鼓をたたいていた父の影響で、私も練習に混ぜてもらおうことになった。

踊りを教えてくださるのは地元婦人会の皆さん。婦人会の皆さんの踊りは手の先から足の先まで、どこを見ても美しい。そんな達人の皆さんに、足を摺って進んだり下がったりする独特な足の運び、肩から上に腕を上げ大きく回す手の振り、笑顔で目線を上げ続けることなどを一から教わった。そのおかげで、私も小学校五年生になった頃には、地域の盆踊り大会だけでなく、町内すべての地域団体がそれぞれ

のナニヤドヤラを披露する夏祭りの流し踊りや、ナニヤドヤラの美しさを競う大会にも参加できるようになった。どのお祭りも大会も、私はいつもものすごく楽しんでる。普段関わる人がない人たちと関わることができ、自分の世界が広がるとともに、笑顔の輪が広がるからだ。

そして、私が大好きなナニヤドヤラの楽しさを、私が通う学校に広めるチャンスが今年巡ってきた。私が通う中野中学校は、今年の十一月、岩手県中学校総合文化祭に参加する。その舞台発表の内容を何にするか決める昨年の話し合いの場で、私は一年生だったが、「ナニヤドヤラはみんなを集めて一つにつなげるもの、どこにでも自慢できるものです。これをきっかけに地域と学校が一緒になって学校を盛り上げたいんです。みんなにナニヤドヤラの楽しさをもっともっと知ってもらって、笑顔になってもらいたいんです。そのためにはナニヤドヤラが一番ふさわしいんです。」と訴えた。そして今年、地元のナニヤドヤラ保存会の方に教えていただいていた全校でナニヤドヤラを習い、中野中学校として初めて町の夏祭りにも参加することができた。そこには、参加者全員の笑顔があり、見てくださったっている方々の笑顔もあり、笑顔の輪が広がった最高に楽しい時間だった。

そのナニヤドヤラも五年程前、地域のお祭りがなくなつたことで地域から姿を消してしまつた。若い後継者がいないことが原因だった。しかし、「今まで大切に伝えられてきたナニヤドヤラを今の代でなくしたくない」という思いから、私の父が中心となり、ナニヤドヤラ保存会「ふじの会」が結成された。「ふじの会」という名前には、ふじの花のように美しくしなやかに踊ろうという思いが込められていて、ふじの会メンバーとして踊る時、その名に負け

ないように踊ろうと、私は背中がすつと伸びる。保存会結成時のことを父はあまり話さないが、お金も着物もなにかもが一からで、なにかから手をつけばよいか分からなかつたと母から当時の苦労を聞いた。今まで伝えられてきたナニヤドヤラをこれからも傳承し続けるために、ナニヤドヤラを地域に復活させた父の「ナニヤドヤラを通して地域と関わり、自分たちも周りの人たちも笑顔になろう」という思いは、今、私が通う中学校全体に確実に広がった。

確かに、人が減り続ける中で何かを続けていくのは難しい。でも、中学生や小学生、若い人たちが加わればつないでいくことができる。私は周りの人のため、地域のために力を尽くす家族や、地域の方々の姿から力をもらい、ナニヤドヤラと学校をつなげ、笑顔の輪を広げることができた。そして、今度は県の中学校総合文化祭で発表することで、県内の人に笑顔の輪を広げることができた。さらに私は、全国の人に笑顔の輪を届けるため、全国中学校総合文化祭への出場を目指している。年齢にかかわらず、たくさんの人とつながることができれば、何だつて続けていくことはできるのだから、私はナニヤドヤラの素晴らしさをいろんな場所に広げたい。ナニヤドヤラが全国の人につながる。考えただけでとてもわくわくする。

ナニヤドヤラは私にたくさん笑顔をくれる。笑顔は私が前に進む勇気をくれる。そして、笑顔は周りの人を幸せにする。何より、私はナニヤドヤラを通して、地域の人たちとのつながりを深めることができ、地域のことますます好きになった。この思い、そして中野の笑顔の輪が切れないように、これからも私は、笑顔でナニヤドヤラを踊り続けたい。

作文を書くに当たって

私はふるさと中野が大好きです。そして中野に伝わる踊り「ナニヤドヤラ」が大好きです。地域の方や家族は、私に「ナニヤドヤラ」の素晴らしさを教えてくれました。地域とつながることの素晴らしさを一人でも多くの人に伝えたいと思い、私はこの作文を書きました。

佳作

海をつなぐ

岩手県洋野町立中野中学校

二年 高 際 桃 々

私は海が大好きだ。海は、私が幼い頃からそばにあり、安心できる場所である。

私は、海沿いの海産物の有名な岩手県洋野町に住んでいる。父は、地元の漁師だ。祖父も前は遠洋漁業の漁師だった。漁業一家に育った私は、海と魚に囲まれる生活を今もしている。そのため、自由研究となれば、海の生き物を調べられたり、食べ物も、おいしいウニやアワビを食べられたり、とっても幸せだ。

しかし、そんな幸せをもたらす海であっても、危険なこと、悲しいことがある。二〇一一年三月十一日に起きた東日本大震災。私の町を津波が襲った。私は当時小学一年生。いきなり大きな揺れ。ただただ怖かった。地元の消防団員である父は、私達家族を置いて、海へ行き、私は避難所で、二日間過ごした。父のいない不安でどうしようもない気持ちが続き、泣きたくなる時もあった。避難所で食べる地元婦人会のみなさんがつくってくれたご飯は、温かくて、とてもおいしかった。温かいご飯と婦人会の方の「たくさん食べて元気出してね」の言葉、時間がたてばたつほど感謝の思いが強くなっている。津波は、近くの駅や線路、家を壊し、去っていった。幸

い、洋野で失われる命はなかったが、父の船は流されてしまった。流される前は、船の前で弟と写真を撮ったり、たまに乗せてもらったりした思い出の船だった。その時、海には危険なこともある、海は悲しい思いも連れてくるので、その海で、命をかけて仕事をしている父や祖父のすごさも知った。

私は小学校から海洋学習を受けている。海について自分から学び、「身近にある海と仲良くならよう」をテーマに勉強に取り組んだ。小学校の先生、東京大学の先生など、たくさんの方々から教わった。そして、震災のこともたくさん学んだ。津波や地震にはプレートが関係していることや、災害への対処を全国で行っていることなどを深く学習した。小学校からの学習で、海についてよく分かったと思う。しかし、その学びをどう生かしていくかを、もっと考えるべきだと思った。この学習がどう役に立つのか私は考えたかった。私は小学生のときに、東京大学で発表したり、中学生では気仙沼で発表したりと経験をしてきた。それを受け、できることとして私が考えたのは、ほかの地域に洋野の海を広めること。インターネットをつながれる、そんな時代だからこそ、洋野の海を知ってもらえると思う。それができるのは、一から勉強して、海の魅力を知った私達だけだと思う。そうすれば観光客も増え、町も活性化し、活気にあふれたすばらしい町になると思う。そこで、私達は力を発揮し、今こそ、生かすべきだと思う。

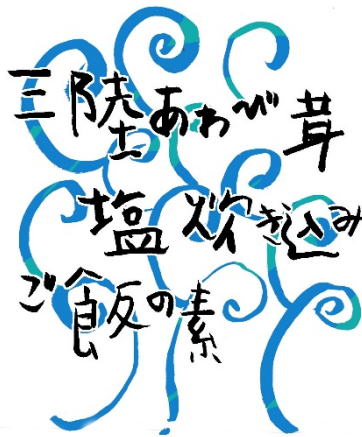
次にできることは、ほかの地域から、洋野へ様々なことを持ち帰り、洋野で実践すること。今、町を出ていく人が多いのであれば、洋野町を出るときに、ほかの町との違いを比較し、帰ってきたときに、それを洋野に伝える中継役をしたら良いと思う。それも、今から大人になる、私達の役目になると思う。

海洋を通して、つながる洋野とほかの地域について頑張れば、また新しい未来が見えてくると思う。海は、私達に幸せと厳しさをもたらしてくれるものだ。私が町をもっとよくしたいと思うようになったのは、地域の人や家族への感謝の気持ちが増え強くなっているからだ。今、自分が中学二年生になって、人のために動くことが、どれだけ大変なことか知り、同時に、人が喜んでくれるのを見て、自分の力になっていると感じた。

私の大好きな海は、私に幸せをもたらし、厳しさも教えてくれるものだ。海が身近にある町に住む私達だからこそできることがある。そこにチャンスがあると思う、これからも頑張っていきたい。



〈1 学年美術科 商品ラベルの作成〉 生徒作品



↑ 三陸あわび茸塩炊き込みご飯の素
↓ 行者にんにく味噌 のラベル



6 実践の評価

【1 学年】

地元企業が独自に開発した、やませによる冷涼な気候と、あわびの殻を利用して栽培する「三陸あわび茸」の植菌作業を行った。また、講師の方から、洋野町が有する海や山、気候がもたらす産業への恩恵について学び、さらに地元企業の活躍も知ることができた。

学習した内容は班ごとに工夫しポスターにまとめ、学級内での発表交流を通し、他の班のよいところなどから自分の班の発表の改善点を見つけ、より分かりやすく伝えるために発表練習を重ねることができた。



全国海洋教育サミットでの発表 in東京大学

【2 学年】

キャリアアップ研修の際に、仙北市秋田杉バイオエネルギーセンターのガス化発電システム事業や景観など、仙北市の観光、食、住、エネルギーについて学び、洋野町と比べることで、洋野の良さを生かした総合的な町づくりについて考えることができた。

学習した内容はテーマごとにパワーポイントにまとめ、文化祭で発表を行った。また、2月に行われた洋野町海洋教育カンファレンスでは、タブレットを使用した発表も行い、将来に生きる発表の力を伸ばすことができた。

【3 学年】

首都圏出身者である洋野町復興支援員の協力を得て、外から見た洋野の魅力について講演を聞き、特別と認識していなかった自然、食べ物、職業、人々の交流がとても魅力的なものであるとあらためて知ることができた。洋野町の現状課題に焦点を当て、課題解決のためにグループに分かれ「夢実現プロジェクト」を立ち上げ、南部潜り体験などを盛り込んだ潜水型水族館や、海洋について学ぶことができる大学など、2学年時に学習していた洋野町の特性を生かした再生可能エネルギーを取り入れた施設の設置を考えることができた。

各グループの提案をパワーポイントにまとめ、学級内での発表交流を通し、分かりやすい資料作りや発表練習を重ね、タブレットによる発表を行い、分かりやすく伝えるプレゼンテーション力を高めることができた。

【全校】

地域に伝わる伝統芸能「ナニャドヤラ」の歴史について、地元保存会の方から教えていただき、「ナニャドヤラ」は「やませ」による冷害で苦しんだ先人の心の拠り所となったことを全校生徒は理解した。今も脈々と受け継がれる伝統芸能の素晴らしい価値に触れることを通し、生徒は地域に誇りを持つことができた。

7 実践の成果

- ・ICT機器を活用し、情報を収集、分析、整理、まとめをしたことで、将来につながる発表の力を伸ばすことができた。
- ・学年の学習成果に基づいたまとめの発表を文化祭に設定したことで、相手意識を持って分かりやすい発表をするという学習意欲を持たせ続けることができ、質の高い発表につながった。
- ・「総合的な学習の時間でどのような力が伸びたと思うか」というアンケートをとったところ、「要点を分かりやすくまとめて話す力、資料やデータを分析する力、プレゼンテーション

力、自分の考えを周りと交流する力、聞く力、質問する力」といった内容が書かれており、各教科でも必要とする力が付いたことが分かった。

- 地元の方に関わっていただき、今まで知らなかった地域の産業や歴史、海と山の関係について知り、理解を深めることで、地域に生きる一員であるという自覚を持ち、何事にもより一生懸命取り組む姿が見られた。

8 次年度への課題

- 新学習指導要領のねらいと生徒の実態を踏まえ、本校の特色を生かした小中学校9年間のカリキュラムマネジメントの構築が課題である。
- 学期ごとに行う小中交流研修の中に海洋教育についての交流も設け、発達段階に応じた学習活動や、系統的計画をさらにより良いものにしていく必要がある。

9、主な連携機関及び内容

学 年	連 携 機 関	内 容
1 学年	長根商店	地元企業の事業と海の関係の学習 三陸あわび茸の菌床ポットづくり、商品のラベル作成
	ひろのまきば天文台	大野地区の産業と海洋の係わりについての講義
2 学年	イオンモール盛岡	キャリアアップ研修（岩手県盛岡市）での洋野町物産品の販売
	秋田県仙北市役所	仙北市の再生可能エネルギー・産業などの学習
	大久保商店、中野衛生社、 カッケロ、ミニストップ、 中野郵便局、なかの保育園、 ユートピア白滝	キャリア教育の充実 （社会人・職業人として自立して生きることや主体的に人生計画を立て、自らの進路を選択・決定することの意義を学習） 地元地域での職場体験学習、学習成果のまとめ・発表
	洋野町役場	洋野町復興支援員による「洋野の良さ」講演
3 学年	ひろのまきば天文台	海成段丘の地形を生かした「ひろのまきば天文台」での天体観測
全 学 年	長根商店、種市南漁協、 川崎食品、館豆富店、洋 野町商工会議所、大野ふ るさと公社	洋野町物産品の販売 文化祭での洋野町物産品の販売 キャリアアップ研修（岩手県盛岡市）、修学旅行（東京都中野区） での洋野町物産品の販売
	洋野町立中野小学校	海岸清掃、授業参観、拡大校内研修会
	中野ふじの会	伝統芸能「ナニヤドヤラ」の学習会、練習会

10 おわりに

地域や関係機関の方々のご協力をいただきながら進めた海洋教育の学習活動において、どの学年の生徒も生き生きと活動する姿がありました。すべての教科で学習し身に付けた知識や技能を総合して取り組む海洋教育によって、地域の魅力を知り、地域を誇りに思い、そこで生きる自分たちにできることを考えて行動する力が高まりました。その豊かな学びの成果が、生徒の活動の様子や協力して出来た作品から伝わるのではないかと思います。

自分たちの言葉で「洋野の未来」を語るができる、そんな人になってほしいという願いを全職員で共有し、これからも、地域を誇りに思い、地域を支える人材を育てていきたいと思えます。ご協力いただいた皆様、大変ありがとうございました。

洋野町立中野中学校教職員一同